

Vol. **51**
J u l y
2 0 2 5

JDS Network News

発行元：一般財団法人日本国際協力センター（JICE）



表紙：モザンビーク マプト中央駅

Topics

活躍する帰国留学生（ウズベキスタン）

- ◆ 駐日バングラデシュ大使館経済公使の国際大学表敬訪問
- ◆ JDS留学中の活躍（カンボジア）
- ◆ ほっとひと息：モザンビーク

JDS

The Project for
Human Resource Development
Scholarship





Mr. Otaboev Abdullajon(オタバエフ・アブドゥラジョン氏)

横浜国立大学大学院工学府、2019年修了、エネルギー市場開発規制庁 副長官

2024年3月、オタバエフ・アブドゥラジョン氏はエネルギー市場開発規制庁副長官に任命されました。オタバエフ氏は、JDSウズベキスタンの18期生として2017年に来日し、横浜国立大学大学院工学府の修士課程に留学しました。

オタバエフ氏は、JDS留学時は国営企業「Uzbekenergo(ウズベクエネルギー)」の品質保証・コンプライアンス部門の主任専門官でしたが、留学中に所属先の組織改編があり、留学後にはエネルギー省に異動し、効率部長等を歴任した後に、2024年3月、新設されたエネルギー市場開発規制庁エネルギーの副長官に任命されました。

エネルギー市場開発規制庁は、透明かつ競争力の高い公正な電力市場を創出する使命を担う組織です。同氏は副長官として、留学中に学んだ知識を生かして、ウズベキスタンのエネルギー分野の規制枠組みの策定及び中長期的なエネルギー戦略の策定を行っています。



オタバエフ・アブドゥラジョン氏

日本留学中、同氏は研究テーマとして「風力発電所にて広く普及している送電網(グリッド)における準モンテカルロ法に基づく最適電力流量計算」を選びました。研究に積極的に取り組み、スウェーデンのストックホルムで開催された「The 17th Wind Integration Workshop」に参加し発表する機会も得ることができたそうです。

オタバエフ氏からは、「日本留学で得た専門知識は、現在の仕事に深く関連しているため、大いに役立っており、同時にウズベキスタンのエネルギー市場の開発にもつながっています。日本の勤勉かつ規律を重んじる社会文化の中での学びを通じて自身を成長させることができ、それらの経験が今回の昇進にも繋がりました」との言及がありました。

オタバエフ氏がJDS留学で得た知識と経験を活かし、ウズベキスタンの発展にさらに貢献することが期待されています。



2025年6月、駐日バングラデシュ大使館のサイード・ナシル・エルシャド経済公使が新潟県の国際大学を表敬訪問し、大学関係者とJDS留学生達と意見交換を行いました。エルシャド経済公使は、加藤副学長を表敬訪問した他、在学中のバングラデシュJDS留学生6名と面会し、キャンパス内での学生生活の日常の様子や学業の進捗状況などについての意見交換を行いました。



エルシャド経済公使(右から4番目)とJDS留学生達

エルシャド経済公使は、同学の施設や受入れ体制を実際に見学し、留学生にとって理想的な研究環境が整備されていることを確認すると共に、JDS留学生たちには、引き続きバングラデシュ政府の代表として学業に専念するよう励ましの言葉がありました。

意見交換会に参加した留学生達からは、「公務で多忙な公使には、東京から新潟県にある大学を訪問して自分達と意見交換する機会を作っていただき感謝している」「とても有意義な機会となった」等の感想が寄せられました。



Mr. Seam Lyheng(シウム・リヘイン氏)

立教大学大学院経営学研究科、2024年修了

カンボジア国立銀行データ管理およびマクロ監視部門 副主任

2024年10月、我が国の金融庁の主催で「第2回アジア・ハイレベル金融規制当局者フォーラム」が東京で開催され、シウム・リヘイン氏は所属先であるカンボジア国立銀行からの依頼を受けて、総裁の訪日準備と滞在中のアテンドを行いました。同年9月下旬に立教大学の修士課程を修了してすぐの帰国前に、日本留学の知見と経験を評価されて所属先内での推薦があり、総裁の日本出張に関して重要なプロトコールを踏まえた調整や会議の準備等を行ったそうです。



立教大学のキャンパスにて
学位記を掲げるリヘイン氏



モザンビークはアフリカ南東部に位置する美しい海岸線を持つ国で、ポルトガル植民地時代の影響を受けた文化と、豊かな自然が魅力です。多様な民族が共存し、音楽やダンス、料理などにその国民性が表れています。特にカシューナッツやシーフードを使った料理が人気で、素焼きのナッツや揚げ菓子が売られる露店では、地元の人々の温かさに触れることができます。今回はそんなモザンビークの軽食や食文化をご紹介します。



【Cashew Nuts (カシューナッツ)】

モザンビークは、アフリカ有数のカシューナッツ生産国。豊かな自然に育まれたナッツは、香ばしく濃厚な味わいが魅力です。現地では、焼き菓子や砂糖で甘くコーティングしたスナックとしても親しまれ、甘くて香ばしい風味が人気。首都マプトの路上では、素焼きのカシューナッツが袋に詰められ、笑顔の売り子たちが観光客に声をかけて売る光景も見られます。お土産としても喜ばれる逸品です。

【Xima and Matapa(シマとマタパ)】

モザンビークの食卓で定番の組み合わせが、シマとマタパ。シマはトウモロコシ粉を練った素朴な主食で、マタパはキャッサバの葉をピーナッツソースで煮込んだ、シチューのような郷土料理です。現地では、手でちぎったシマをマタパにたっぷり絡めて食べるのが伝統的なスタイル。素朴な味と香りが調和し、家庭の温もりを感じる一皿です。



【Pastel de Nata (パステル・デ・ナタ)】

日本ではエッグタルトでお馴染みの、ポルトガルの伝統的なカスタードタルト。サクサクのパイ生地の中に濃厚でなめらかなカスタードクリームが詰まったお菓子です。焼きたては特にパイ生地がパリッと音を立ててサクサク食感、そしてとろりとクリームの甘さが口の中でとろけて絶妙な美味しさです。

JDS 3つの特徴

1

行政官限定事業

※一部例外がございます

2

6,345名 23カ国の実績

※事業終了国の人数も含む ※2024年度までの人数

3

大臣・局長級を輩出

対応国の社会・経済開発計画の立案・実施に関わる若手行政官が日本で修士号または博士号を取得しています

出身省庁…財務・経済、法務、行政、環境、インフラ、教育等

<JDS実施国 (JICE)> ※受入開始年順

ウズベキスタン、ラオス、カンボジア、ベトナム、モンゴル、
バングラデシュ、フィリピン、キルギス、タジキスタン、
スリランカ、東ティモール、パキスタン、ブータン、モルディブ、
ケニア、セネガル、ウクライナ

※中国は2012年、インドネシアは2006年に事業終了しました。

日本で専門知識を身に付け帰国した留学生は、
日本との政策対話に携わり二国間強化に寄与する等、
様々な場面で活躍しています。

人材育成奨学計画 (JDS) は無償資金協力による
JICA留学生事業です。

編集後記

JDS Network News (JNN) をお読みいただき、ありがとうございます。

モザンビークにてJDS事業を開始するための2023年度の協力準備調査を経て、今年2025年8月下旬に待望のJDSモザンビーク第一期留学生が来日する予定です。

JDSではポルトガル語圏からの留学生をお迎えするのは初めてなので、特に留学生のモニタリング担当者の間ではモザンビークの文化的要素も含めて勉強会を重ねるなど、受入れの準備が盛んに行なわれています。

日本から遥か遠いアフリカの南東に位置するモザンビークで日本留学を選んでくださった留学生たちが、一日も早く日本の生活に馴染めるように関係者一同でサポートしていきたいと思います。

JDS事業に関するご質問がございましたら、お気軽にメールで弊センターまでお問合せください。また、本誌へのご意見・ご感想もお待ちしております。

【お問い合わせ先】

一般財団法人日本国際協力センター (JICE)
留学生事業第一部留学生事業課広報担当
E-MAIL: jds.pr@jice.org